

# 山口県議会ベトナム友好・調査訪問団報告書

(令和6年12月16日～12月20日)

議長代理	守田宗治
団長	吉田充宏
団員	西本健治郎
	坂本心次
	国本卓也
	林直人
	前東直樹
	大内一也
	藤本一規

## 【目次】

○ベトナム友好・調査訪問を通して	1
・12月16日(月) [ハノイ市]	3
・12月17日(火) [ハノイ市、ビンズン省]	5
・12月18日(水) [ビンズン省]	7
・12月19日(木) [ビンズン省、ホーチミン市]	12
(12月20日(金) [移動日])	
○所感	14
○ベトナム友好・調査訪問を終えて	22
○訪問日程、訪問団名簿	24

## ベトナム友好・調査訪問を通して

議長代理 守田 宗 治

このたび、ベトナムへの派遣という貴重な機会をいただき、関係の皆様に対し、訪問団一同、心からお礼を申し上げます。



覚書締結10周年記念式典でのあいさつ

山口県議会が独自にビンズン省を訪問したことをきっかけに、平成26年12月、山口県とベトナムビンズン省、山口県議会とビンズン省人民議会がそれぞれ友好交流に関する覚書を締結しました。

それ以来、両県省議会間の相互交流を進めるとともに、両県省による、経済、教育、文化など幅広い分野

での交流を後押ししてまいり、新型コロナが世界中で蔓延し、あらゆる交流の機会が失われる中でも、医療用の支援物資を送り合うなど、大変な状況のときにもお互いを思いやる関係を築いてまいりました。

そして、令和5年には、日本とベトナムとの関係が「包括的戦略的パートナーシップ」へと格上げされ、両県省にとっても追い風が吹く中、覚書締結から10年目という記念すべき年を迎えたこの機に、両県省のこれまでの交流で深まった絆をさらに強固なものにし、ともに成長・発展し合える関係構築を目指し、村岡知事とともに、このたび、ベトナムを訪問することとなりました。

行程の中では、最大の目的であるビンズン省での覚書締結10周年記念式典への出席のほか、ベトナム政府要人への表敬訪問、在ベトナム日本大使館や政府関係機関への訪問、ハノイ県人会との交流、ベカメックスIDCやビンズン省の大学訪問など、成長著しいベトナムとの幅広い分野での交流の活発化に向けて精力的に調査視察や交流を行ってまいりました。

なかでも、ファム・ミン・チン首相との面会では、首相から、フグの輸入について関係省で検討させるとの前向きな回答をいただくなど、県

産農林水産物の取引拡大に向け、大きな成果を得ることができました。

ビンズン省では、省の実力者であるグエン・バン・ロイ書記長との面会の機会をいただき、両県省の発展に向けた書記長の熱い思いに触れることができました。その後に訪問したビンズン省人民議会では、グエン・バン・ロック議長をはじめ、多くの地元議員に熱烈に出迎えていただき、闊達かつ終始和やかな意見交換がなされ、相互の信頼関係の醸成と、友好親善が促進されたものと感じました。

その後、メイン行事である、覚書締結10周年記念式典では、県とビンズン省とのさらなる友好協力に関する覚書締結、そして、産業人材の送り出しと受入れに関する合意議事



ロック人民議会議長への記念品贈呈

録への署名がなされ、県議会もこの立会人として、今後の更なる交流の発展に大きな期待を抱く瞬間を見届けることができました。

こうした、このたびの訪問による交流を通じて、相互の信頼関係がより深まったことを、手ごたえとして感じるとともに、訪問を通じて得られた成果を、両県省の発展につなげていくため、今後の議会活動の中でしっかりと生かしていかなければならないと、訪問団一同、思いを新たにしました。

また、今回の訪問の成功が、これまでの地道な交流の積み重ねの上にあることを改めて実感するとともに、直接現地を訪問し、顔が見える形での交流の重要性についても、改めて気づかされる機会となりました。これからも、こうした訪問団の派遣は是非とも必要であり、継続していくことが大事であることを強く申し上げたいと思います。

結びに、今回の訪問にあたりまして格別なご理解とご協力を賜りました関係者各位に対し、厚くお礼を申し上げます。

令和7年1月

## 12月16日（月）【ハノイ市】

### ■在ベトナム日本国大使館訪問

在ベトナム日本国大使館を訪問し、伊藤直樹特命全権大使から、ベトナムの政治や経済、日越関係等についてのブリーフィングを受けた。

政治面では、8月にトー・ラム党書記長が就任して以降、国家機構の大幅な合理化・再編が急速に実施されるとともに、生産力向上やDX、グリーン化など様々な新政策が打ち出されていること、経済面では、一人当たりGDPが年々増加し、対越外国投資も堅調に推移するなど成長傾向にあるものの、有力な国内企業が少なく、製造業における裾野産業も未熟であることが課題であり、継続した成長に向けては、生産性向上や海外企業との連携による国内企業の成長が求められること等を伺った。

また、在日ベトナム人は60万人超（直近10年で約6倍増）となっており、その主な要因は特定技能1号労働者の増加によるものであるが、今後は熟練した技能を有する特定技能2号労働者など高度人材の増加も期待されているとの説明があった。



伊藤特命全権大使によるブリーフィング

### ■ファム・ミン・チン首相との面会

ベトナム政府のファム・ミン・チン首相と面会した。

チン首相、村岡知事、守田議長代理の挨拶の後、村岡知事から、外国人材の受入れ促進やフグ、日本酒、和牛といった県産農林水産物の輸出拡大など、本県のベトナムにおける取組への継続的な支援を要望した。

チン首相からは、本県とビンズン省のこれまでの交流を高く評価いただきとともに、フグについては、「農業農村開発省において輸入を解禁できるよう検討させる」との前向きな回答をいただくなど、県産農林水産物等の輸出拡大につながる成果が得られた。



チン首相との面会



## ■ハノイ山口県人会「やまぐち海外展開応援団」委嘱状交付式

ハノイ山口県人会への「やまぐち海外展開応援団」委嘱状交付式に出席した。

県人会会員はそれぞれ現地で様々な分野で活躍され、現地でのネットワークやビジネス上のノウハウを数多く持つため、この度の委嘱を機に、これまで以上に展示会やイベントへの誘客、情報収集等に協力を得られることで、県内中小企業の海外展開が一層促進されることが期待される。

交付式の後、大田県人会会長をはじめ21名の会員と懇談会が開催された。同県人会は、2011年に結成されて以降、毎月のペースで開催



村岡知事から委嘱状の交付

され、今回で139回目を数えるなど精力的に活動されている。こうした会員同士の強い結束力に触れ、山口県に少しでも貢献したいという思いを伺うことができるなど非常に有意義な交流となった。



### やまぐち海外展開応援団

#### ○趣旨

海外でのノウハウ、ネットワークを有する在外山口県人会に県内企業の海外展開を支援していただくもの（県への助言、展示会出展時の広報・誘客への協力、情報収集・商談先発掘への協力等）

#### ○委嘱状況

ホーチミン市山口県人会（令和5年9月9日）

シンガポール山口県人会（令和5年10月10日）

### ハノイ山口県人会

○設立 2011年12月13日

○会員 約30名

## 12月17日（火）【ハノイ市、ビンズン省】

### ■JNTO（日本政府観光局）ハノイ事務所訪問

JNTOハノイ事務所を訪問し、松本二実所長から、ベトナムの訪日旅行の状況や傾向についてのブリーフィングを受け、山口県へのインバウンド誘客に向けた意見交換を行った。

ベトナムから50万人を超える観光客が訪日しているが、訪問先では、体験型イベントや、人と景色がきれいに映る撮影スポット等への人気が高い、徒歩移動は敬遠される傾向など山口県が訪問先に選ばれるために知っておくべきベトナム観光客のニーズについて詳しい説明があった。

また、意見交換では、社員旅行や報奨旅行など企業が組む団体旅行が多く、特定の旅行会社が利用される傾向にあることから、日系企業や旅行会社に対しアプローチをすることが有効との助言を得た。



松本所長によるブリーフィング

## ■JETRO（日本貿易振興機構）ハノイ事務所訪問

JETROハノイ事務所を訪問し、小林恵介次長から、ベトナムの経済事情や海外企業の進出等についてのブリーフィングを受け、県内企業の海外展開や人材確保等についての意見交換を行った。

ベトナムの経済成長について、数字上の説明だけでなく、自転車からバイクへの交通手段の移り変わりや街の飲食店での電子決済の普及など、小林次長が体感された所得増加、技術導入に伴う目に見える変化について伺った。



吉田団長あいさつ

また、日系企業や直接投資額の増加などベトナムとの連携が強まる中、産業の特性や電力面での課題等、

山口県の企業が進出する上で留意すべき事項について説明を受けた。

意見交換では、ベトナム人労働人材の確保に関し、国内外で奪い合いが起こる中で、日本は為替により賃金水準が不利な状況になっているが、IT高度人材向けアンケート結果では生活・環境面から日本の人気はまだ高く、こうした人材に本県で働く魅力を伝えることも重要と伺った。



小林次長によるブリーフィング

## 12月18日（水）〔ビンズン省〕

### ■ 東部国際大学訪問

山口大学、山口県立大学と学術交流協定等を結んでいる東部国際大学を訪問した。

大学内において、山口県とビンズン省の友好・協力に関する覚書締結10周年を記念した植樹を行った後、村岡知事から多くの学生に向けて、山口県の自然や食、文化、観光名所などの魅力を発信する講演が行われた。

講演後には学生との意見交換が行われ、学生からは、山口県で就職するにあたっての語学習得や必要な情報収集のための支援等について積極的に質問されていた。当日は、山口県立大学の学生も講演に出席しており、大学間の交流の深まりを感じた。



覚書締結10周年記念植樹



知事による講演



出席した学生たち

## ■ベカメックスIDC訪問

ビンズン省の公営デベロッパーであるベカメックスIDCを訪問し、グエン・バン・フン会長をはじめ、同社幹部の方々に面会した。冒頭フン会長から、ベカメックスIDCが進めている2030年に向けた発展計画、2050年に向けたビジョンについてビデオ上映を交えた説明を受けた。その後、村岡知事、守田議長代理から説明への感想や挨拶を述べ、今後の連携に向けて意見交換を行った。



守田議長代理あいさつ



### ベカメックス IDC コーポレーション

会社概要（1976年に設立された100%ビンズン省政府出資の有限会社）

資本金：10兆3,500億ドン

従業員：約4,000人

代表：グエン・バン・フン（Nguyen Van Hung）取締役会長兼CEO

業種：不動産業

主な事業：工業団地開発、住宅不動産開発

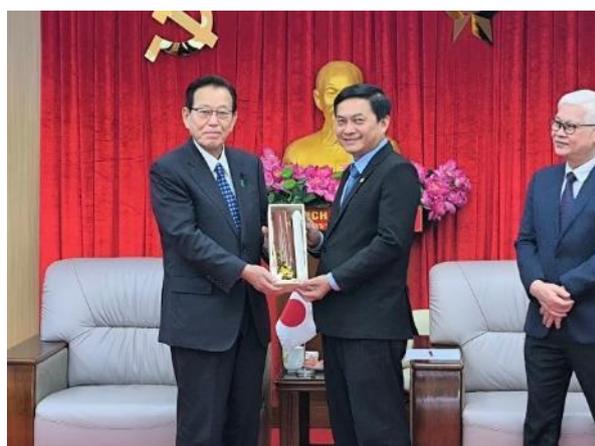
## ■ビンズン省共産党書記長表敬訪問

ビンズン省共産党のグエン・バン・ロイ書記長をはじめ同省政府要人を表敬訪問した。

ロイ書記長、村岡知事、守田議長代理が挨拶を行い、これまでの交流成果を振り返るほか、今後とも両県省が強い信頼と友情に基づき、未来志向の交流を築いていくことを確認した。



また、DXやGXなど両地域共通の行政課題について、両県省の取組状況を紹介し、意見交換を行った。



守田議長代理から記念品贈呈



## ■ビンズン省人民議会表敬訪問

グエン・バン・ロック議長をはじめビンズン省人民議会幹部の方々を表敬訪問した。

冒頭ロック議長から、2014年の議会同士の友好親善交流に関する覚書締結以降、相互の活発な交流によりその関係が深まっていることを確信しているとの挨拶があった。守田議長代理からは、今



回の訪問に対する心温まる歓待への感謝と、この訪問を契機にさらに議会同士の交流の輪を広げていきたい意向を伝えた。

意見交換では、人民議会側の出席者の多くが女性であることに触れると、議員67人のうち女性が23名で、人民議会での総括的な役割を担う常務委員会の委員5名のうち男性はロック議長のみであるなど、女性の参画が進んでいるとの発言があった。また、今後はサイクルレースやマラソンなどのスポーツや、音楽イベントの開催等を通じての交流も歓迎するといったやりとりもあり、今後の両議会の交流がより幅広い分野に発展することを期待させた。



意見交換の様子



## ■覚書締結10周年記念式典

山口県とビンズン省間及び両県省議会間の友好交流に関する覚書締結10周年を記念する式典が開催された。

ビンズン省からは、共産党書記長をはじめ、人民議会議長、人民委員会委員長などの政府要人や政府系企業などの関係者、県からは行政訪問団、議員訪問団に加え、県内企業の訪問団も参加するなど盛大に執り行われた。



式典内で行われた両県省間の「更なる友好・協力に関する覚書」及び

「産業人材の送り出しと受入れの協力に関する合意議事録」への署名に立ち会った。今回の署名を契機に、山口県とビンズン省との間で産業人材の確保など幅広い分野での交流の更なる強化が期待される。

後半は、両県省の産業面での更なる交流を見据え、村岡知事からの山口県の産業分野でのカーボンニュートラルの取組についての講演や、ベカメックスIDCによるビンズン省の発展と投資環境に関する紹介、ベカメックス東急によるプレゼンなどが行われた。



守田議長代理あいさつ



覚書への署名

## ■ ビンズン省対外レセプション

覚書締結10周年記念事業も兼ねたビンズン省主催のレセプションに参加した。式典出席者に加え、省内の各国総領事館、JICA、JETRO、日本人商工会議所など様々な関係者が一堂に会し、活発な交流がなされた。



## 12月19日（木）〔ビンズン省 ⇒ ホーチミン市 ⇒ 日本〕

### ■ トウ・ヤウ・モット大学訪問

ビンズン省の公立学校であるトウ・ヤウ・モット大学を訪問した。

同校の概要として、55の学科を持ち、学生数約22,000人と教職員約750人が在籍する省内で最も規模の大きい大学であり、ベトナム南部の経済発展に貢献する人材を多く輩出しているとの説明を受けた。

また、県内大学との学術提携や、看護関係の学科創設に向けた協力、日本語教育、学生の技術交流、カーボンニュートラルの取組など、多岐にわたって山口県との連携を希望されていることを伺った。県からは、学生同士の交流や様々な分野での連携について、できることから進めていきたいとの考えを伝えた。



学内の様子

### ■ ビンズン省医療短期大学訪問

看護師など医療系技術者の養成機関であるビンズン医療短期大学を訪問し、今後の連携について意見交換を行った。学長代理から、現在、本県と連携して実施している留学生マッチング事業により、一定数の学生が留学を希望し、具体的なプロセスに移行しているとの成果を伺った。意見交換では、大学側から、当



事業への学生の関心を高めるための介護コースの創設を検討されていることや、留学支援事業の看護分野への拡大、学生交流を通じた日本語習得等についての提案があり、県としても検討を深めるとされた。

また、大学の学生たちが同席しており、村岡知事から山口県の魅力をPRするなど、開かれた雰囲気の中で交流することができた。



### ■ ホーチミン・メトロ視察

完成まで12年もの歳月を要し、ようやく開業を3日後に控えたホーチミン・メトロ1号線の地下鉄構内を視察した。

当都市鉄道の整備事業には、円借款による資金支援だけでなく、数々の日本企業が参画し、その技術やノウハウが取り入れられている。中でも車両は、本県下松市の日立製作所笠戸事業所で製造されたものであり、当日は車両の試運転が行われていたことから、実際に走行する車両を見ることができた。

ベトナム都市部では慢性的な交通渋滞が課題であり、その様子が各地で見られたことから、県内企業も参画した都市鉄道の開通が、こうした課題の解消につながることを期待される。



地下鉄駅構内

## 《所感》

---

### 西本 健治郎

私にとってビンズン省への訪問は2回目となる。平成27年8月、当時の畑原基成議長より、今後のASEAN地域での国際交流を通じた県レベルでの関係構築の重要性を説かれ、知事や議長をはじめとする訪問団に参画させていただいたのが最初の訪問であった。

あれから10年、ビンズン省は目まぐるしい経済発展を遂げ、特に我々が公式行事で訪れた中心部は、政治経済、また教育機能等が集積され、模範とすべき都市へと成長していた。



ビンズン省人民議会との意見交換

2日間に渡るビンズン省での活動は、行政機関への表敬訪問をはじめ、ベカメックスIDC、大学視察や記念式典への出席など、いずれの場面でも覚書締結10周年という大きな節目を迎え、各分野における両省県の更なる連携強化を確認、推進していこうという、未来志向の有意義な機会となった。

このうち、東部国際大学訪問では、教職員や学生を対象とした知事によるプレゼンや質疑応答の中で、持続的な経済交流はもとより、今後の国際競争に求められるグローバル人材の相互育成についても言及され、学生からも高い関心があったことは印象的であった。こうした提言を機に、両国間の若者の往来が更に活発化し、山口県・ビンズン省双方に様々な波及効果が出てくることを期待するものである。

結びに、今回の訪問に際し、歓迎・対応いただいたビンズン省の全ての皆様に感謝し、両省県の友好関係の進展、また平和と発展を願い所感とする。

## 坂本心次

最初に訪問した在ベトナム日本国大使館では、伊藤大使から、ベトナム情勢について説明を受けました。6%前後のGDP伸び率や、日本よりも15歳も若い(32.5歳)平均年齢など、ベトナムの活気を示す数値に驚きつつ、一方で、都市部と地方部でGDPに大きな差がある、といった様々な課題についても知見を深めることができましたが、そうした中において、ビンズン省はベトナム国内でも上位のGDPを誇っていることを知り、これからの本県との関係発展に大きな期待を感じました。また、ベトナムは今後、DX、GX、AI、半導体に力を入れていく方針であるとの説明もあり、こうしたことは、世界共通の取組の方向性ではないかと感じました。

また、この日は、ファム・ミン・チン首相を表敬訪問する貴重な機会を得ることができ、充実した意見交換が交わされました。昨年の日越外交関係樹立50周年を契機に、日本とベトナムとの関係は「包括的戦略的パートナーシップ」へと格上げされましたが、首相からは、分野を超えた交流強化の意思が示され、さら



チン首相と握手

に本県とビンズン省との交流関係を大いに評価されていたのが印象的でした。また、村岡知事から、フグや和牛、日本酒などの県産農林水産物の輸出拡大への協力について要望され、これに対し、関係部署で検討させるとの前向きな回答があったことは大きな成果であると感じました。これに加え、産業人材の育成に向け協力し合うことも確認され、ビンズン省との間で交わされた産業人材に関する協力合意に大きく弾みがつくものと期待するものです。

最後に、再びベトナム訪問の機会をいただいたことについて、柳居議長をはじめ、関係の皆様へ感謝するとともに、両県省、両議会の交流がさらに活発化するよう、議会訪問団の一員として、またASEAN議連役員の一員として、今後とも尽力してまいります。

## 国本卓也

ビンズン省は、ベトナムの中で、ホーチミン市に次いで2番目に外国投資の多い工業都市であり、その発展をけん引しているのが、我々が視察したベカメックスIDCです。ベカメックスIDCでは、フン会長から、2030年に向けた開発計画について説明を受けました。工業団地に外国企業を誘致するため、これからの団地開発は再生可能エネルギーの活用などを含むエコシステムを導入していく計画であり、本県のカーボンニュートラルの取組にビンズン省から大きな関心が寄せられていることから、我が国の脱炭素技術がこうした開発へ貢献できる可能性を感じました。

また、英語教育が充実した東部国際大学では、工業系学科を有し、ビンズン省の将来の工業を支える高度人材育成にも積極的であり、開発と教育の連携が緊密にできている様子が窺えました。

一方で、工業団地で勤務する従業員の多くは、ベトナムの各地から集まってくるものことでしたが、今後、他都市との人材獲得競争が生じるという話も聞き、工業団地内でさらなる生産性向上の動きが加速することが



東部国際大学での記念植樹

考えられます。今回、県とビンズン省は、「産業人材の送り出しと受入れの協力に関する合意議事録」に署名し、大きな成果を上げましたが、世界との人材獲得競争に打ち勝つためには、ビンズン省との今後一層の交流を進め、強固な信頼関係を積み上げていくことが重要であると強く感じました。そして、今回大学内に植樹された記念樹が、互いの信頼関係のもとで大きく育っていくことを期待してやみません。

終わりに、ベトナムビンズン省人民議会との友好交流覚書締結10周年を契機としたこのたびのベトナム訪問では、多くの交流行事等へ出席する中で両県省の友好の絆の深さを改めて確認し、またさらなる交流を深めるとともに、成長著しいベトナム経済の現状等に関する知見を深めることができました。このような貴重な機会をいただきました柳居議長はじめ、関係各位に深く感謝申し上げます。

## 林 直人

この度、ベトナム友好・調査訪問団として貴重な経験をさせていただけたことに感謝申し上げます。

トウ・ヤウ・モット大学を訪問した際、大学関係者や学生による温かいおもてなしを受けました。バスのドアが開く前から理事長や学長らが歩み寄られ、会議室までのアプローチには多くの学生が民族衣装をまとい出迎えてくださいました。ベトナムの接遇文化は昔の日本に似ており懐かしさと共に感慨深いものがありました。

学生による日本の曲歌唱から始まった意見交換会では、学長より5つの要望がありました。①山口の大学との交流を深めたい。②医療・看護の技術を学びたい。③日本語教育普及のため日本語学部をつくりたい。④様々な産業技術交流を図りたい。⑤net-zero（カーボンニュートラル）を学びたい（前日の村岡知事のプレゼンに感銘を受けたとのこと）。学長は「本校はビンズン省で最大規模の大学で、ここでの学びを省内に還元することが大きな役割であり、省から交流という臨床体験を通じ日本文化や医療技術を学ぶミッションを指示されている。」と話されました。また、学内視察の際に大学側の通訳の方から、「多くの国々から留学生を受け入れており、現地のホストファミリー宅で生活している。国際交流が年々盛んになっている。」と伺い、日本のダイバーシティ施策に遅れを感じました。

次にビンズン省医療短期大学を訪問しました。ここでも看護師のユニホームを着た多くの学生による出迎えを受けました。ビンズン省保健局長である理事長の挨拶の後、副学長からの学校説明では、学科は看護・薬学・助産・准医師（医師助手）の4つで、1,778名の学生が3年間医療技術を研鑽するとのことでした。

大学からの要望は①看護学生が介護に興味を持てるよう介護学科をつくりたい。②3年看護＋2年介護＋1年日本語で6年かかるため、6ヶ月ベトナムで介護を学び日本に行かせたい。③看護留学を検討してほ



看護学生と交流

しい。④私たちも山口県に行きたい。また近年、学生が自らセミナー企画を開催するなど機運が高まっており、より一層の国際交流を深めていきたいとのご意見をいただきました。

私は日本にもっとたくさんの国々から学生が来て国際交流をすべきと考えています。今後、山口県民がよりダイバーシティ思考になり、寛容な社会づくりができるように活動してまいります。

---

## 前 東 直 樹

まずはこの度の訪問機会をいただいたこと、ご尽力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

ベトナムの皆さんが長きに渡る戦禍を乗り越え発展しゆく姿を直接知ることができたことは、本当に貴重な経験となりました。

私からは、JNTO（日本政府観光局）ハノイ事務所ならびにJETRO（日本貿易振興機構）ハノイ事務所訪問について報告を致します。

JNTO事務所長からは、日本とベトナムの極めて良好な2国関係のもと、ベトナムの経済発展に伴い2023年で57万人を超える方が訪日しており、今後もニーズを満たせば更なる訪問も期待できることを伺いました。

一方で山口県の課題としては、初来日者が多数を占める中で、初回から県内を選んでもらえるかどうか。現地事務所には、山口県のパンフレットが未配置であることや、県内情報のベトナム語での案内方法を検討すること等、取り組むべき課題も感じます。

また、JETROでは事務所次長より、ベトナムの近年の経済、貿易・投資の現況説明を踏まえ、日本の直接投資について、実際の実行額ベースから信頼感・安心感が高いことを伺いました。こちら言葉や生活環境、



JNTO での意見交換

電力リスクといった課題はあるものの、経済成長に伴うビジネスチャンスは大きいと感じました。

JNTOがベトナムからの訪日を推進するのに対し、JETROは日本企業のベトナム進出を推進する役割にあり、ある意味で相互の関係にあります。説明の中でも、日本で働くベトナムの皆さんの姿が進出へのきっかけとなることも多いことも伺い、観光目的の増加も含め、県内に滞在されているベトナムの皆さんとの交流も重要であると感じました。

おわりに、今後の更なる友好発展と交流拡大を念願しますとともに、微力ながら尽力してまいります。

---

## 大内 一也

ベトナム友好・調査訪問団の一員として参加する機会を頂き、関係各位に感謝申し上げます。

訪問1日目は、首都ハノイ市において、在ベトナム日本国大使館とファン・ミン・チン首相への訪問、「やまぐち海外展開応援団」委嘱状交付式に参加、列席させていただきました。

ベトナム大使館では、伊藤直樹大使より、ベトナム情勢について説明をいただきました。成長著しいベトナムであります。省市別の一人当たりGDPを見ると省市の格差が大きいこと、党書記長が変わられ国家の更なる飛躍を目指しDXや国家機構の再編に取り込んでいること、成長のためにはインフラ整備がまだまだ重要であること、といった説明を受けました。

次に、ファン・ミン・チン首相への訪問では、ファン・ミン・チン首相、村岡知事、守田議長代理の挨拶の後、安倍首相との友好関係や日本との関係について伺いました。



県人会会員と交流

また、村岡知事からは、山口県産のふぐや牛肉など、産業面での関わりの強化について話をされ、終始和やかな雰囲気での会談が行われました。

その後の「やまぐち海外展開応援団」委嘱状交付式では、山口県人会の皆様から現場の声を伺う貴重な機会となりました。

毎月、懇親会を開くなど県人会の絆と仲の良さは素晴らしく、皆さんベトナムに根を張り頑張っている姿を拝見し、頼もしく感じました。

また移動中の景色では、自動車やバイクがひしめき合い、若者の姿が多く、非常に活気があり、まだまだ成長していく国であることを実感しました。

国の大きな方針やベトナムの今後の話から、現場で頑張っている生々の声を伺うことができ、貴重な体験をいたしました。この経験をしっかり県政に活かし、山口県の発展に尽力してまいります。

---

## 藤 本 一 規

JNTOハノイ事務所では、ベトナムから日本へのインバウンドをどう進めていくのかについて説明を受けました。

まず、ベトナムと日本間の国際線の運航状況について、定期便では、ハノイとの往復が週84便、ホーチミンとの往復が週72便、ダナンとの往復が週11便、合計週165便が運航しています。加えて、今年5月からベトジェット航空が広島―ハノイ間の定期便を週3便で運行を開始しました。広島に到着した観光客は、現在、大阪方面へ移動しているとのことでした。



JETRO での意見交換

私は、「広島から山口方面への移動はどのような状況か」と尋ねたところ、松本所長は、「広島を下りて、東ではなく、西方向への展開は必

要と考えている。山口そして福岡へ移動するルートの確立が必要だ」と答えました。今後、この点でのツアーの構築へ、旅行会社との協議に県としても参画する必要性を感じました。

次に、チャーター便については、現在、愛媛、福島、仙台、静岡、新潟、和歌山、北海道、沖縄、鹿児島、岩手、島根、香川などで運行されています。更に、神奈川や北海道が相互でフェスティバルを開催したり、中部地域や九州地域でセミナーが開催されたりする等の動きがあります。

県として、これらの動きを注視し、ベトナムとのチャーター便の運航や、動きのある島根や広島と共同し、中国地方全体でのセミナーやフェスティバルの開催などについて検討する必要性があると感じました。

次に訪問したJETROハノイ事務所では、対ベトナムへの外国からの直接投資の状況を伺いました。

24年1月～9月の投資認可の件数は、中国は前年同期比46.5%増の一方、日本は、11.4%減となっています。小林次長は、この点について「トランプ政権発足で、中国への関税が引き上げられる可能性を推察して、ベトナムへの投資を急激に増やしたことがその理由」と説明しました。また、小林次長は、日本がマイナスであることについて、日本のベトナムへの投資の割合は減っているが、一方、直接投資認可額の割合は前年同期比61.9%増となっており、投資状況は順調に推移していると説明しました。また、日本は出資・株式購入額が増加傾向にあるとのことで、今後もベトナム企業との連携が強まり、両国の経済成長につながることを期待されます。

## ベトナム友好・調査訪問を終えて

団 長 吉 田 充 宏

ベトナム訪問を終えて、こうした貴重な機会を与えていただいた関係の皆様に対し、訪問団一同、心からお礼を申し上げます。

今回、ベトナム訪問の議員団団長を拝命し、またASEAN議連会長としてその職責を果たすべく、訪問前には執行部に協力をいただき、訪問団全員参加によるベトナムに関する事前学習会を開催し、有意義な訪問活動に資するようしっかりと準備して臨みました。

訪問では、まず、ベトナム政府のファム・ミン・チン首相との面会が実現し、首相からビンズン省との交流について高く評価されるとともに、フグをはじめ、県産農林水産物の輸出拡大などを要望し、お互いの経済交流の発展に向けた有意義な意見交換ができました。

また、ハノイ山口県人会との交流では、同県人会の活気あふれる活動の様子を知り、このたび委嘱された「やまぐち海外展開応援団」としての活躍に大きな期待を寄せる機会となりました。

ビンズン省では、山口県訪問団を熱烈に歓迎いただき、開催していただいたレセプションはビンズン省政府や人民議会の要人との心通う温かい親交の場となりました。

そして、覚書締結10周年記念式典では、これまでの相互交流を振り返るとともに、我々県議会も立会人となり、県とビンズン省と

の更なる交流・協力に関する覚書締結、さらには産業人材に関する文書への署名が交わされ、今後の未来志向での友好協力関係を構築していくことが確認されました。

さらに、ビンズン省共産党の書記長、人民議会に表敬訪問し、両県省の友好関係を深めていくため、今後も互いに協力していくことを確認し



ベカメックスIDCフン会長へ記念品贈呈

ました。

また、ベカメックスIDCを訪問し、ビンズン省の今後の開発計画の中で、環境への配慮を重要視していること、脱炭素化に対し高い関心があることを知り、今後ビンズン省と本県が協力し取り組む分野になる可能性を感じました。

さらに、東部国際大学やトゥ・ヤウ・モット大学、ビンズン医療短期大学といった学術機関を精力的に訪問し、本県で深刻化する人手不足の状況を踏まえ、今後の人的交流の発展に向けた意見交換を行いました。



JNTOでのあいさつ

そのほか、在ベトナム日本大使からはベトナムの政治や経済の状況についての説明を受け、JETRO、JNTOではベトナムとの経済交流やベトナムからのインバウンド活性化に向けた貴重な情報を収集することができ、ベトナムとの幅広い交流を進めていくための知見を深める機会になりました。

最終日には、ホーチミン市において、ベトナムで初めてとなる地下鉄のホームを見学する機会にも恵まれ、日立製作所笠戸事業所で製造された真新しい車両の試運転の様子も視察することができ、最後まで充実した訪問活動となりました。また、訪問した議員それぞれの所感からも、今回の訪問が大変充実したものであったことを感じております。

我々訪問団一同、今回の訪問を通じて得られた成果やベトナムビンズン省との深い絆、各地の視察や意見交換等によって深められた知見を、今後の県政に反映させ、議会活動に生かしていく、その思いを強くしたところです。

結びに、訪問の際に説明や案内等のご対応をいただいた現地の皆様、訪問前の事前調査や準備にご協力いただいた執行部の皆様をはじめ、お世話になりました皆様に心から感謝申し上げます。

## 訪 問 日 程

- 12月16日(月)〔日本⇒ハノイ市〕  
 在ベトナム日本大使館訪問  
 ファム・ミン・チン首相との面会  
 ハノイ山口県人会「やまぐち海外展開応援団」委嘱状交付式
- 12月17日(火)〔ハノイ市⇒ビンズン省〕  
 日本政府観光局(JNTO)ハノイ事務所訪問  
 日本貿易振興機構(JETRO)ハノイ事務所訪問
- 12月18日(水)〔ビンズン省〕  
 東部国際大学訪問  
 ベカメックスIDC訪問  
 ビンズン省共産党書記長表敬訪問  
 ビンズン省人民議会表敬訪問  
 覚書締結10周年記念式典
- 12月19日(木)〔ビンズン省⇒ホーチミン市⇒日本〕  
 トウ・ヤウ・モット大学訪問  
 ビンズン医療短期大学訪問  
 ホーチミン・メトロ視察  
 (12月20日(金)移動日)

## 訪 問 団 名 簿

議長代理	守 田 宗 治	自由民主党 (下松市)
団 長	吉 田 充 宏	自由民主党 (山口市)
団 員	西 本 健治郎	自由民主党 (下関市)
団 員	坂 本 心 次	自由民主党 (周南市)
団 員	国 本 卓 也	自由民主党 (上関町・田布施町・平生町)
団 員	林 直 人	自由民主党 (下関市)
団 員	前 東 直 樹	公明党 (下関市)
団 員	大 内 一 也	やまぐち県政会 (周南市)
団 員	藤 本 一 規	日本共産党 (宇部市)
随 行	堀 泰 志	議会事務局 政務企画室長
随 行	塚 本 敬太郎	議会事務局 議事調査課 主査
随 行	山 田 達 也	議会事務局 政務企画室 主査